

これまでの取組、課題と対策の方向性

令和8年9月18日

水災害調査・対策検討委員会(第1回)

国土交通省 水管理・国土保全局

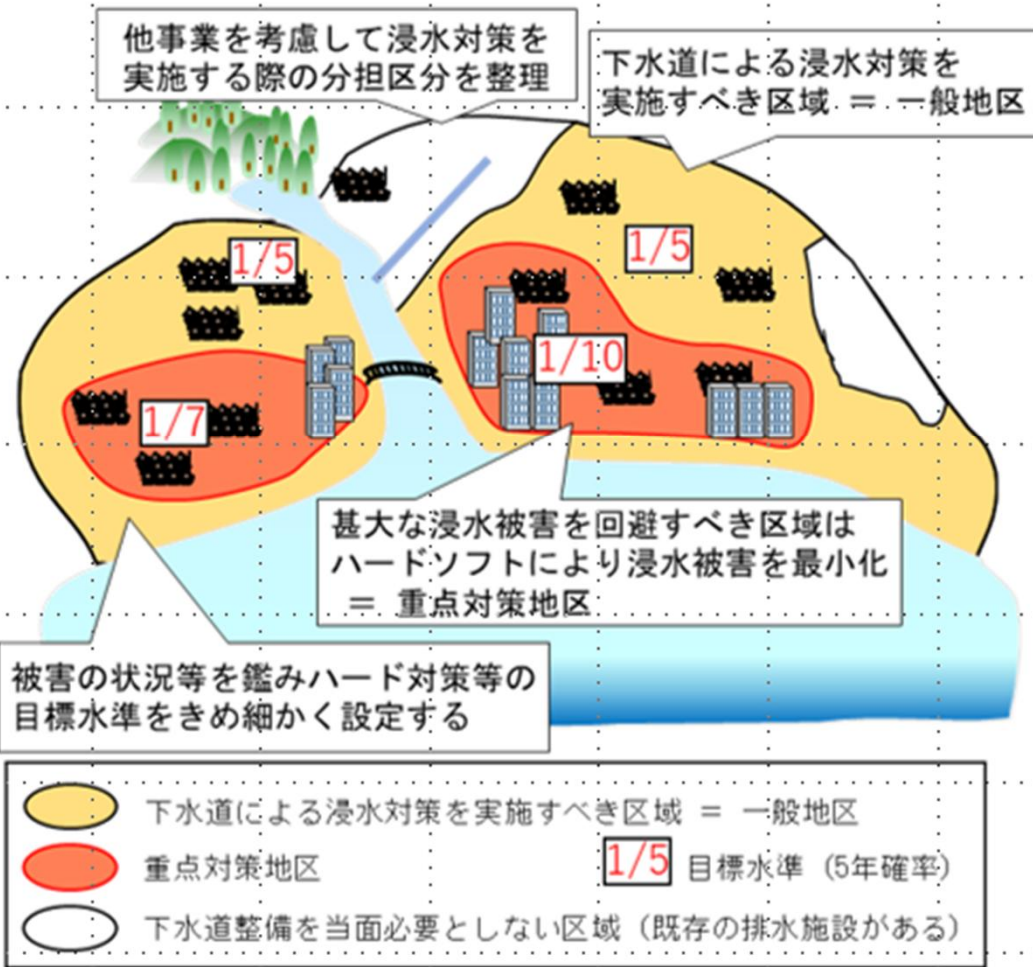
目次

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1. 浸水被害の防止・軽減対策の状況 | ・・・P. 2 |
| 2. 施設整備等による被害防止・軽減効果と課題 | ・・・P. 8 |
| 3. 浸水リスクに関する情報の整備状況と課題 | ・・・P.13 |
| 4. 明らかになった課題と対策の方向性(案) | ・・・P.25 |

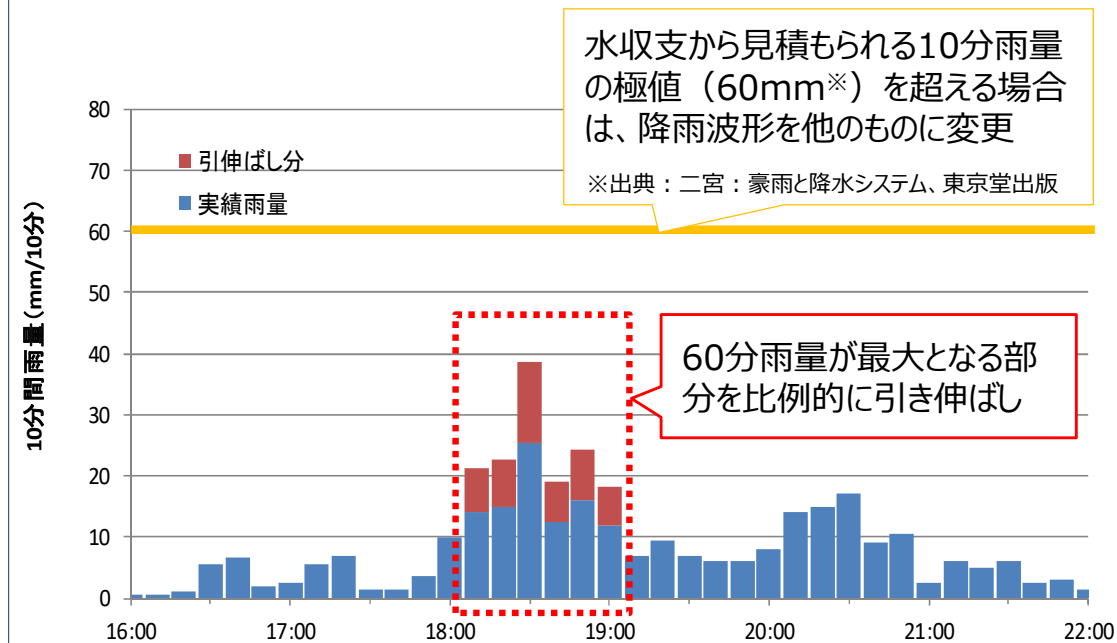
下水道区域における雨水出水(内水)対策の基本的な考え方

- 都市部においては、5年確率降雨(概ね50mm/h)、10年確率降雨(概ね60~70mm/h)を整備目標に、公共下水道の整備が進められている。
- 命を守り、壊滅的な被害を回避する観点から、想定しうる最大降雨(想定最大降雨)で内水浸水想定区域図を作成し、ハザードマップへ展開することとしている。

今後の下水道の整備イメージ



想定最大規模降雨の設定手法



- 想定最大規模降雨については、日本を降雨の特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において観測された最大の降雨量により設定することを基本とする
- 降雨波形については、検討対象都市における最悪の事態を想定した実績降雨の降雨波形(10分ピッチ)をベースに、60分雨量が最大となる部分の降雨量が想定最大規模降雨の降雨量と等しくなるよう、比例的に引き伸ばすことを基本とする

被災地域のハード・ソフト対策実施状況(下水道事業)

○雨水整備計画での計画規模は1/5規模(計画降雨50mm/h)を基本としており、1/5規模に対する整備率(都市浸水対策達成率)は全国平均で約6割、政令市で約7割となっている。

市町村名	計画降雨量	8月13日 時間最大 雨量 (mm/hr)	浸水戸数	下水道による ハード対策の内容	下水道による ソフト対策の内容	最大クラスの内水に対応した		
						想定区域図		内水HM
						作成	公表	作成・公表
千葉市	重点地区:65.1mm/h(1/10確率) 一般地区(高):65.1mm/h(1/10確率) 一般地区(低):53.4mm/h(1/10確率)	115	床上1213棟 床下 659棟	貯留施設、管路施設 雨水浸透施設	・防水板、浸透樹設置助成制度	○	○	○
市川市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	62	床上54棟 床下106棟	ポンプ場、管路 雨水マンホールポンプ 調節池、小学校オンサイト貯留	・貯留施設・浸透ます・止水板への助成 ・土のうステーションの設置 ・大雨、洪水警報発表時のパトロール ・河川水位情報の公開 ・雨水出水浸水想定区域図の公表	○	○	○
船橋市	56mm/h(1/5確率) (ただし、市外流出地区は50mm/h)	62	床上37棟 床下52棟	管路、ポンプ(更新)	—	○	○	○
松戸市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	61	床上70棟 床下402棟	管路、ポンプ(更新)	・既存雨水施設や道路側溝等の清掃 ・防災情報の資料配布や防災訓練の推進	○	○	○
茂原市	分流:61mm/h(1/10確率) 合流:50mm/h(1/5確率)	57	床上21棟 床下206棟	管路、貯留管、貯留施設	・浸水防止対策補助制度 ・雨水貯留施設等設置補助制度 ・土嚢の無償提供	○	○	○
佐倉市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	97	床上39棟 床下127棟	管路、ポンプ場、貯留施設	・防災訓練・防災教育等の推進 ・止水板の設置の推進	△(既往)	△(既往)	△(既往)
東金市	一般地区:52.2mm/h(1/7確率)	57	床上10棟 床下 2棟	管路	—	○	○	○
習志野市	一般地区:50mm/h 56mm/h(1/5確率)	56	床上13棟 床下10棟	管路	—	△(既往)	△(既往)	△(既往)
柏市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	92	床上167棟 床下101棟	護岸、管路、ポンプ(更新)	・センサーの設置 ・マンホール水位計の設置 ・カメラ設置	○	○	○
市原市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	115	床上56棟 床下283棟	ポンプ場、ポンプ(増設) 管路	・雨水施設の点検及び清掃 ・大雨、洪水警報発表時のパトロール、 土のうの提供	○	○	○
八千代市	一般地区:50mm/h(1/5確率) 重点地区:61.5mm/h(既往最大)	112.5	床上538棟 床下266棟	管路、ポンプ場	・ウェブカメラの設置・公開 ・水位警報装置の設置 ・土嚢ステーションの設置	○	○	○
我孫子市	一般地区:50mm/h(1/5確率) 重点地区:104.5mm/h	97	床上74棟 床下115棟	管路、ポンプ(増設)	ワンコインセンサ実証実験によりセンサ設置済み ・雨水貯留タンク設置補助金 ・浸水防止工事の助成制度	○	○	R9.3 予定
鎌ヶ谷市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	92	床上141棟 床下231棟	管路	・雨水間浸透樹のモニター制度 ・土嚢配布 ・防災訓練の推進、防災講話の開催	△(既往)	△(既往)	△(既往)
四街道市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	97	床上139棟 床下170棟	管路、貯留施設	—	○		
八街市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	97	床上6棟 床下14棟	管路	—	○	○	
印西市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	61	床上2棟 床下4棟	—	—	○		△(既往)
白井市	一般地区:50mm/h(1/5確率)	62	床上20棟 床下45棟	管路	—	○	○	○
大網白里市	一般地区:44.6mm/h(1/5確率)	57	床上168棟 床下230棟	管路、ポンプ場	—	○	○	△(既往)



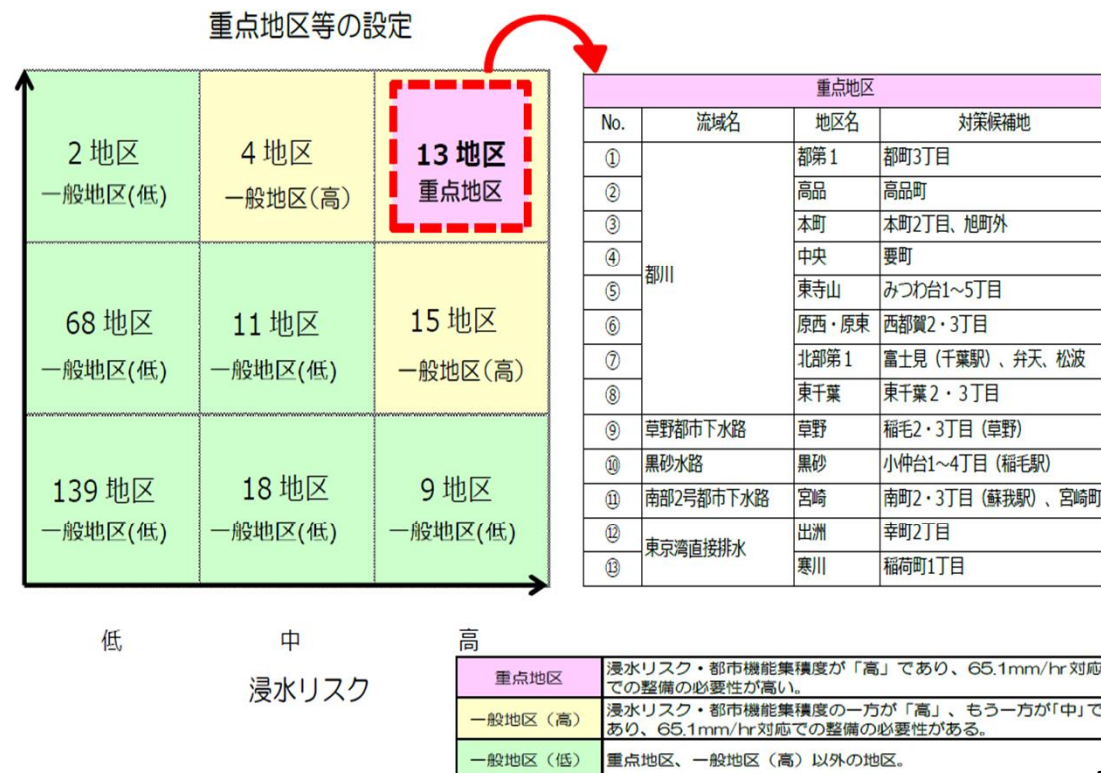
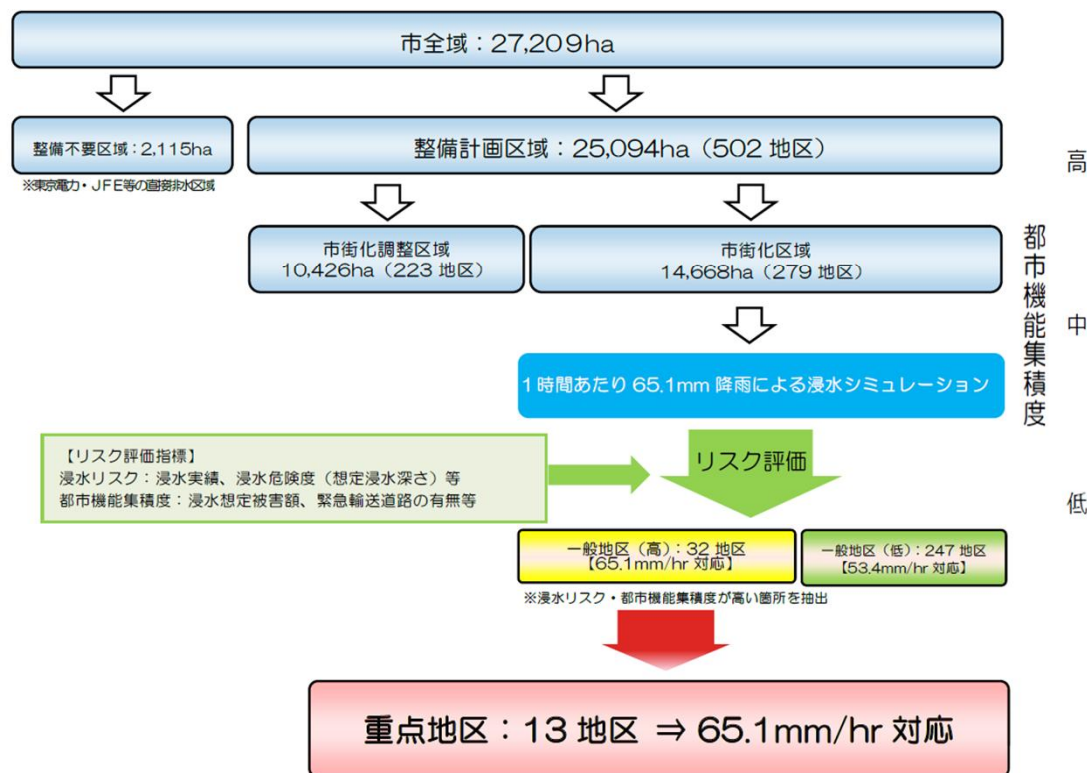
千葉市 弁天地区雨水貯留施設



船橋市 山手1丁目地区雨水幹線

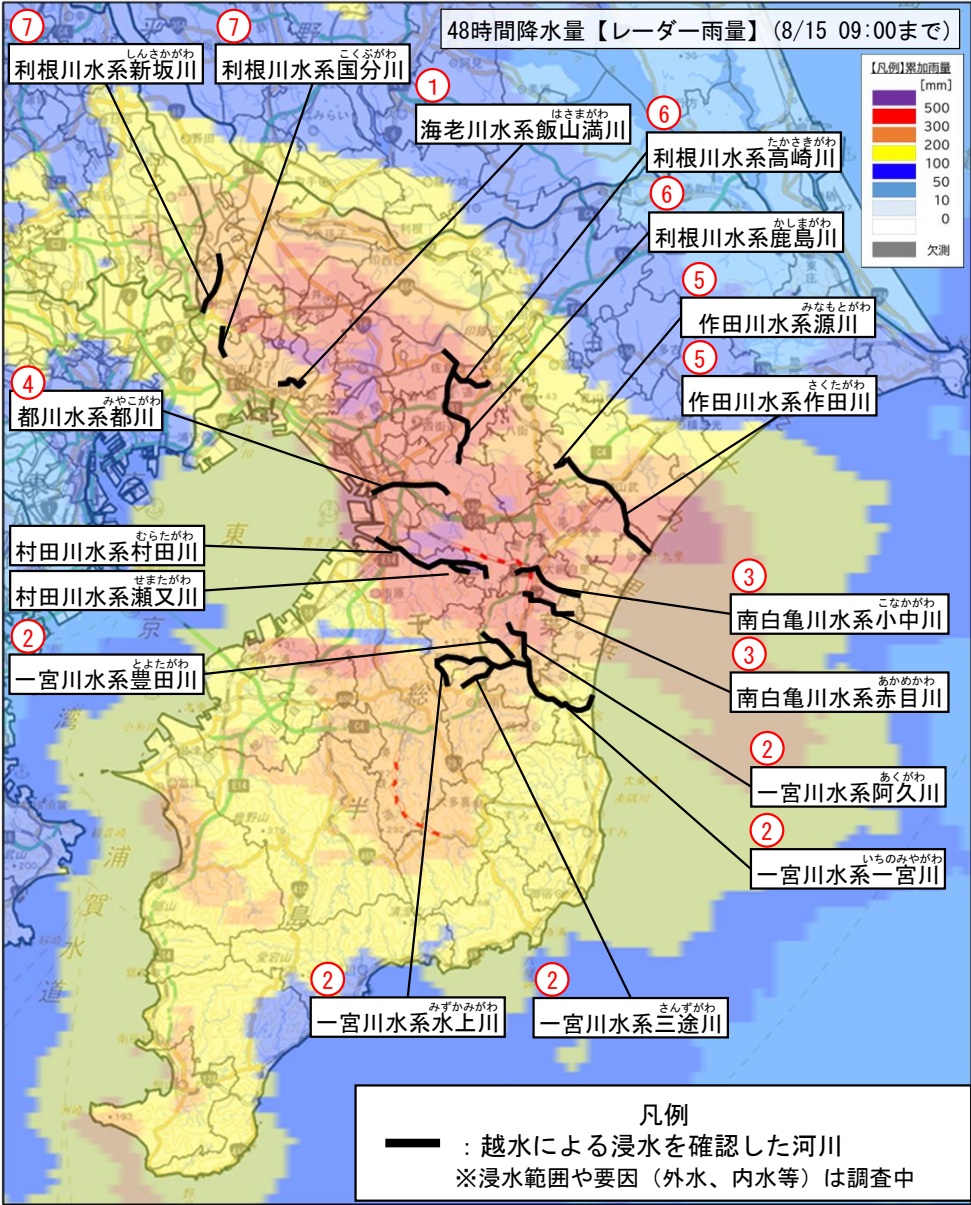
千葉市の下水道区域における浸水対策の整備目標

- 千葉市では、降雨の激甚化や浸水被害の発生を踏まえ、平成16年度に市全域の整備水準を53.4mm/h(10年確率降雨)へ引き上げ
- その後、局地的大雨や大型台風による浸水被害の発生や、「雨水管理総合計画ガイドライン(案)」の公表を受け、浸水リスクと都市機能集積度の高い地区を対象に再評価
- 市街化区域等を対象に65.1mm/h降雨による浸水シミュレーション及び、都市機能集積度・浸水リスクをもとにリスク評価を行い、平成28年度に重点地区を選定
- 現在は、重点地区13地区について近年の降雨状況を踏まえ、65.1mm/hに引き上げ、その他の地区は53.4mm/h対応を基本として効率的な浸水対策を推進



千葉県内の河川整備の状況(整備目標)

- 千葉県内の県管理河川の河川整備基本方針は概ね1/50規模、河川整備計画での計画規模は1/10規模(計画降雨50mm/h前後)を基本としている。
- 今回の降雨は概ね整備計画目標の雨量を超過している。



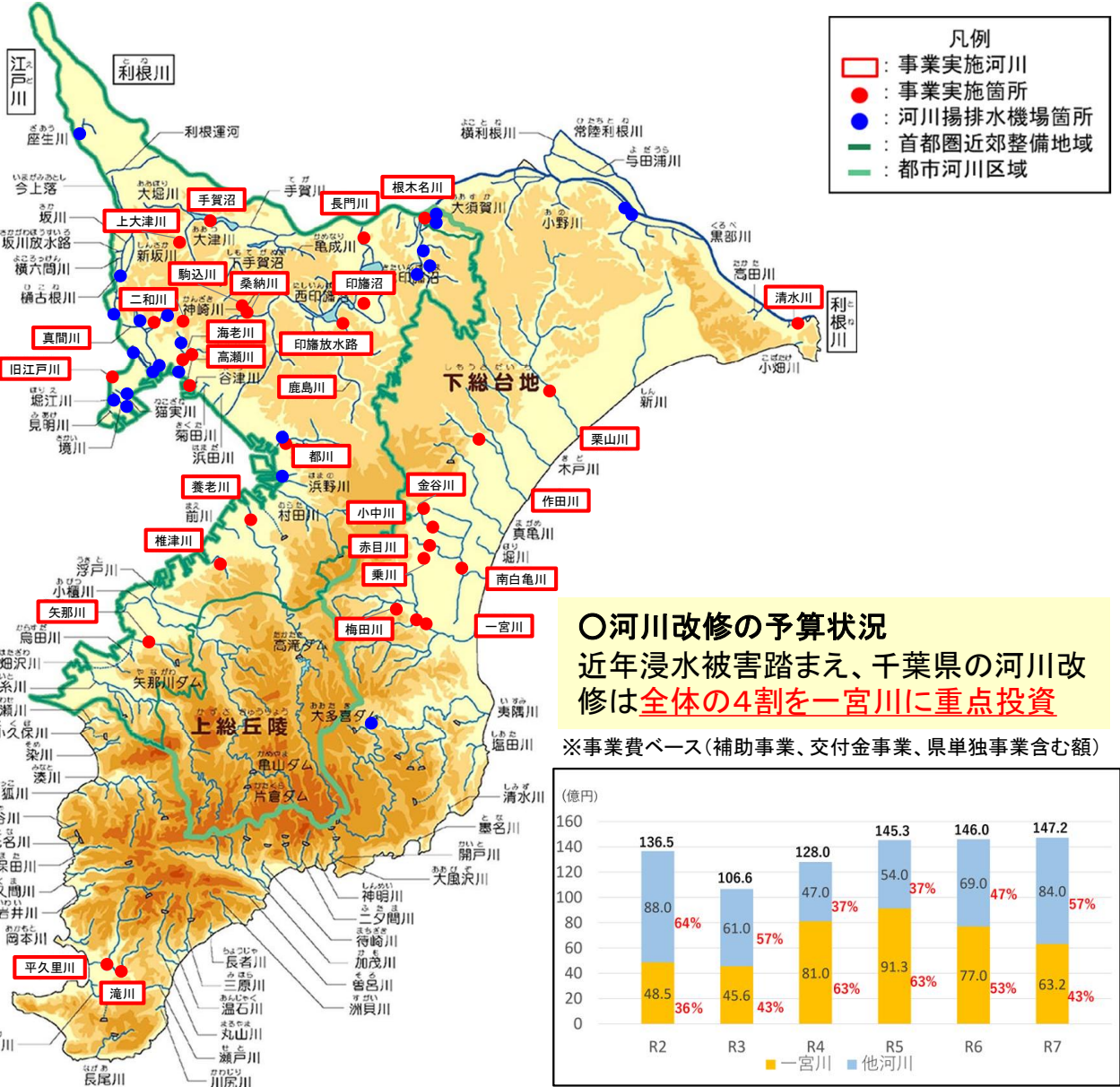
○整備方針・計画を策定しており、越水があった河川を含む水系

水系・圏域名	河川名	河川整備計画		令和8年8月千葉県豪雨
		計画規模	計画降雨	流域平均雨量
① 海老川水系	海老川、飯山満川、長津川	1/10	約50mm/h	61mm/h
② 一宮川水系	一宮川、瑞沢川、埴生川、長楽寺川、小生田川、佐坪川、鶴枝川、阿久川、豊田川、三途川、水上川	1/10	46mm/h	51mm/h
③ 南白亀川水系	南白亀川、内谷川、赤目川、小中川	H8.9豪雨規模	31mm/h	87mm/h
④ 都川水系	都川(河口～坂月川合流点)	1/50	約70mm/h	71mm/h
	都川(坂月川合流点～高根橋)	1/10	約50mm/h	
⑤ 作田川水系	作田川、境川、源川	1/10	69mm/h	57mm/h
⑥ 利根川水系手賀沼・印旛沼・根木名川圏域	弁天川、下手賀川、下手賀沼、浦部川、和泉川、鹿黒川、大森川、古新田川、手賀沼、大津川、大堀川、長門川、旧長門川、鹿島川、高崎川、師戸川、角田川、造谷川、手繰川、小竹川、印旛放水路、戸神川、二重川、法目川、復川、富ヶ沢川、野口川、七次川、木戸前川、桑納川、石神川、勝田川、竜台川、派川十日川、荒海川、小橋川、取香川、派川根木名川、尾羽根川	1/10	50mm/h	88mm/h (印旛土木事務所) ※2
⑦ 利根川水系江戸川左岸圏域	座生川、座生川支川、今上落、六間川、横六間川、坂川、新坂川、坂川放水路、富士川、樋古根川、派川坂川、真間川、国分川、春木川、国分川分水路、大柏川、派川大柏川、高谷川、秣川、旧江戸川、境川、堀江川、見明川	1/10	50mm/h	67mm/h (東葛飾土木事務所) ※2

※1_朱書き河川名は浸水被害が確認された河川
※2_流域最寄りの観測所におけるピーク雨量を記載

千葉県内の河川整備の状況(対策内容等)

- 人口や資産が集中する地域や、近年浸水被害が発生した河川の整備が優先的に進められているところ。
- R元年10月洪水等を踏まえ、一宮川では**築堤**や**河道掘削**など重点な整備を進めてきた結果、被害軽減の効果が確認されており、他の河川でも同様の整備内容が中心となっている。



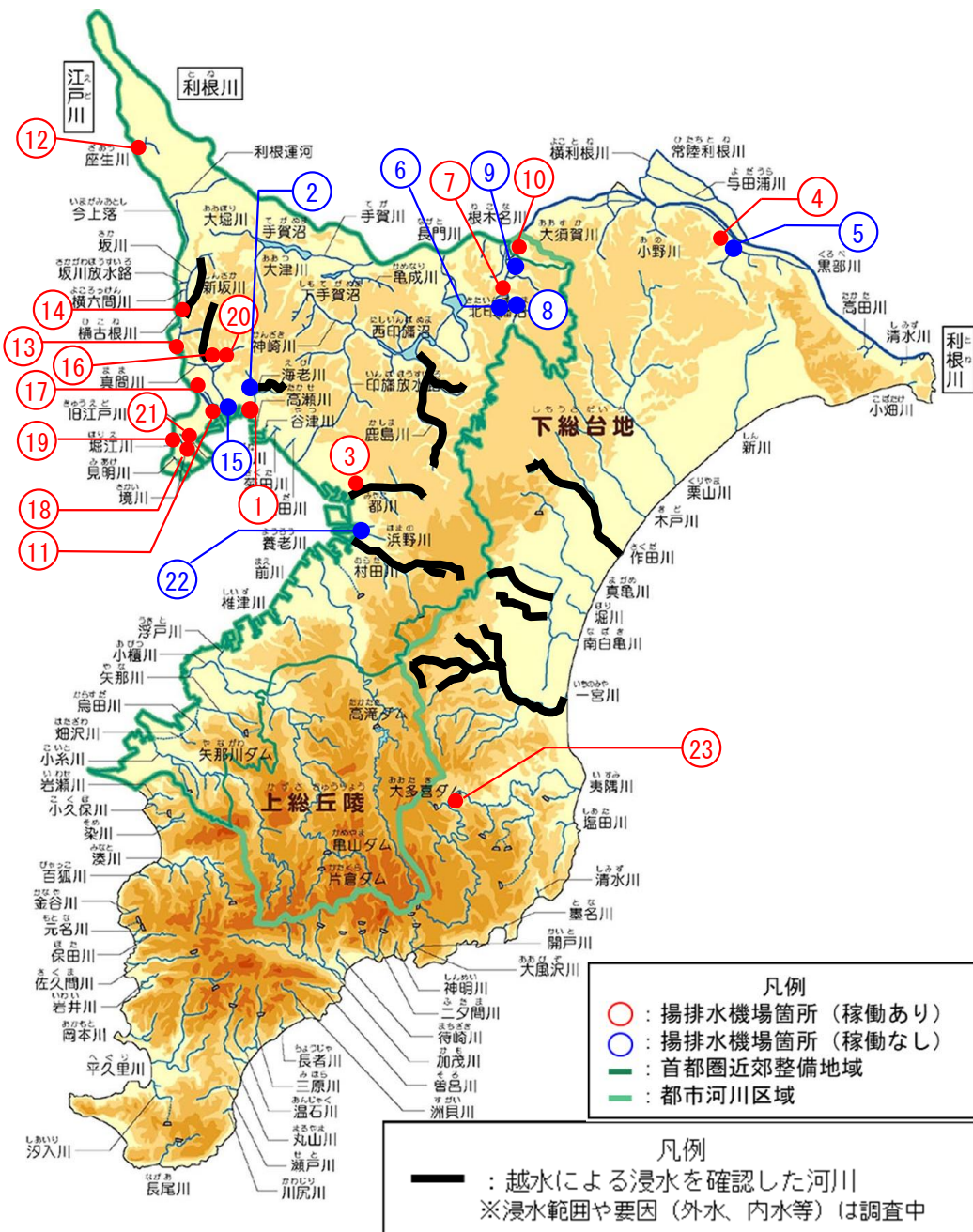
○事業実施河川一覧

水系名	河川名	全体事業内容(主な工種)
海老川	海老川	築堤、河道掘削、調節池、護岸、橋梁、堰
	海老川(校庭貯留)	貯留浸透施設整備
一宮川	一宮川	築堤、河道掘削、調節池、護岸、橋梁
	梅田川	河道掘削、護岸、橋梁、樋管
南白亀川	小中川	河道掘削、護岸、橋梁、堰
	赤目川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁、堰、樋管
	南白亀川	築堤、河道掘削、護岸、樋管
	金谷川	河道掘削、護岸、橋梁
	乗川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁
都川	都川(河川改修)	築堤、河道掘削、護岸、水門、橋梁
	都川(高潮対策)	護岸
	支川都川	築堤、河道掘削
作田川	作田川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁、樋管
利根川	手賀沼	築堤、地盤改良、堤脚水路
	上大津川	築堤、河道掘削、護岸、樋管
	桑納川	河道掘削、護岸、橋梁、樋管、水道管移設
	駒込川	河道掘削、護岸工、橋梁、樋管
	二和川	函渠(河積拡大)、護岸、
	印旛放水路	築堤、河道掘削、地盤改良、橋梁、水管橋
	印旛沼	築堤、河道掘削、橋梁
	印旛沼(校庭貯留)	貯留浸透施設整備
	鹿島川	築堤、河道掘削、橋梁
	真間川	築堤、河道掘削、越流施設、排水施設
	旧江戸川	築堤、根固工
	長門川	河道掘削、護岸、樋管、水門
	根木名川	築堤、河道掘削、護岸、地盤改良
	清水川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁
	高瀬川	水門(高瀬川・谷津川)、排水機場(谷津川)
	養老川	築堤、河道掘削、護岸、水門
	椎津川	河道掘削、護岸、橋梁
	栗山川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁、樋管、排水機場
	矢那川	河道掘削、護岸、橋梁
平久里川	平久里川	築堤、河道掘削、護岸、堰
	滝川	築堤、河道掘削、護岸、橋梁、樋管、堰

※朱書き河川名は浸水被害が確認された河川

千葉県内の浸水対策の状況（排水機場）

○ 千葉県内の排水機場は23箇所中、16箇所が稼働。排水中の稼働停止や、これに起因する影響は確認されていない。



○千葉県内揚排水機場一覽(河川管理施設)

No.	水系名	河川名	揚排水機場名	排水容量	稼働有無	稼働時間
1	海老川	海老川	海老川排水機場	40.0m3/s	●	約10時間
2		長津川	長津川調節池排水機場	0.25m3/s		
3	都川	葭川	葭川排水機場	45.0m3/s	●	約9時間
4	利根川	黒部川	一之分目揚排水機場	6.0m3/s	●	約7時間
5		小堀川	豊排水機場	6.0m3/s		
6		根木名川	押畑排水機場	1.8m3/s		
7		根木名川	芦田排水機場	1.5m3/s	●	約31時間
8		根木名川	新妻排水機場	1.2m3/s		
9		派川根木名川	磯部排水機場	0.3m3/s		
10		派川根木名川	八幡前排水機場	0.3m3/s	●	約24時間
11		高谷川	高谷川排水機場	12.0m3/s	●	約18時間
12		座生川	座生川排水機場	50.0m3/s	●	約4時間
13		坂川	柳原排水機場	26.0m3/s	●	約13時間
14		樋古根川	樋野口排水機場	15.0m3/s	●	約17時間
15		真間川	真間川排水機場	50.0m3/s		
16		春木川	春木川排水機場	5.0m3/s	●	約22時間
17		秣川	秣川排水機場	23.0m3/s	●	約9時間
18		境川	境川排水機場	5.0m3/s	●	約2時間
19		堀江川	堀江排水機場	10.0m3/s	●	約10時間
20		大柏川	大柏川第一調節池排水機場	2.0m3/s	●	約31時間
21		猫実川	猫実川	猫実排水機場	20.0m3/s	●
22	生実川	生実川	生実川排水機場	18.0m3/s		
23	夷隅川	夷隅川	久保排水機場	1.5m3/s	●	約7時間

※本資料は河川管理施設関係を整理しているが、他に下水道関係の排水施設がある

効果事例(千葉市:雨水貯留施設整備)

- 千葉市では、近年の局地的大雨や台風による被害を軽減するため、「千葉市雨水対策重点地区整備基本方針」を策定し、「リスク」と「都市機能集積度」がともに高い地区を重点地区(65.1mm/h)に位置付け、効率的な雨水対策を推進
- この取り組みの一環として、公園地下空間を活用した雨水貯留槽の整備を進め、令和8年4月までに市内3施設について雨水貯留槽の供用開始
- 重点地区について、65.1mm/hまで降雨レベルを上げて下水道施設の整備を進め、今回の豪雨により満水となるなど整備効果を発揮したが、想定以上の降雨(115mm/h)により、被害が発生

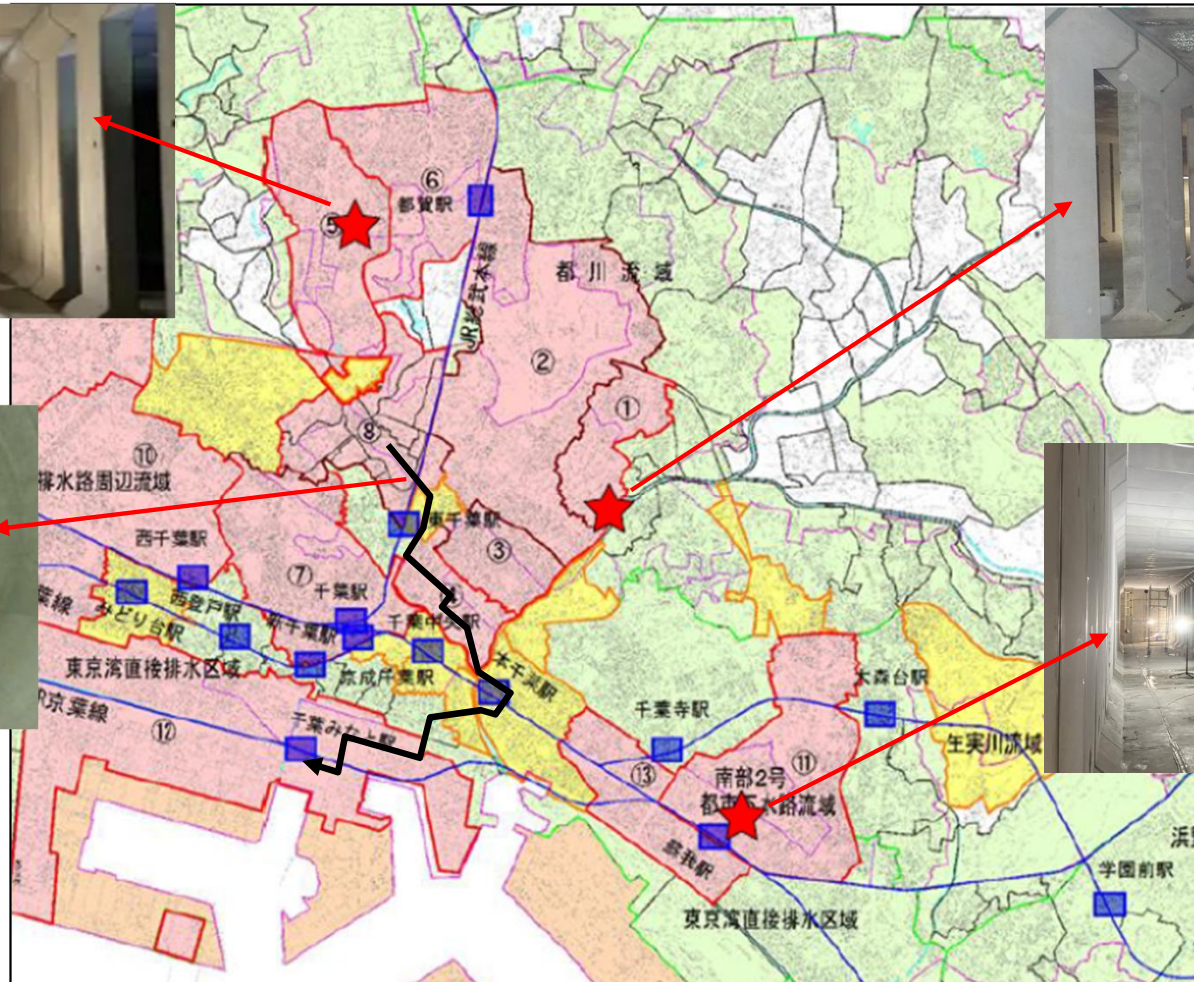


みつわ台雨水貯留槽
貯留量: 7,500m³

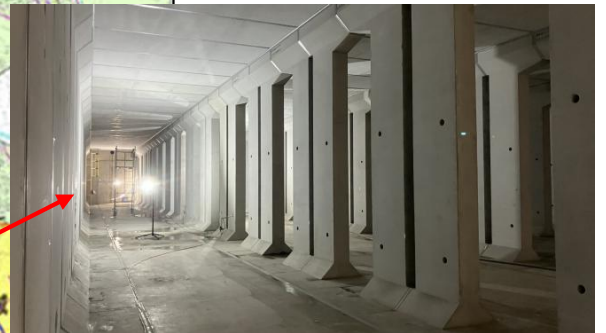


中央雨水1号貯留幹線
内径: 5,250mm 延長: 約 5.1km

- 重点地区
- 一般地区(高)
- 一般地区(低)



都雨水貯留槽
貯留量: 2,600m³

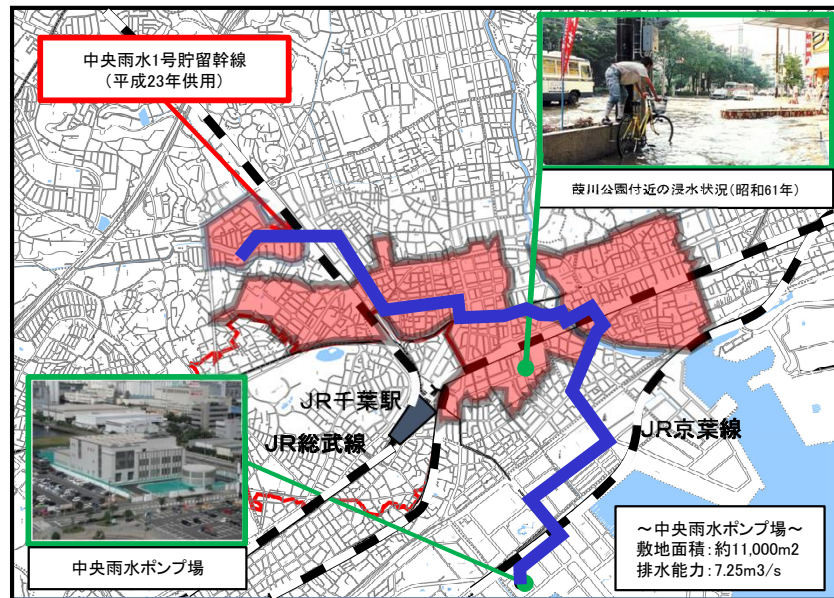


宮崎雨水貯留槽
貯留量: 11,000m³

効果事例(千葉市:中央雨水1号貯留幹線)

- 都市機能が集積する千葉市の中心市街地では、かつて1時間30～40mm程度の雨で浸水被害が発生。
- 10年に1回程度降る非常に激しい雨【計画降雨(53.4mm/h)】に対応できるよう、**貯留幹線等を整備**。
- 令和元年度の大雨などで効果を発揮し、浸水被害が軽減したが、想定以上の降雨(115mm/h)により、被害が発生

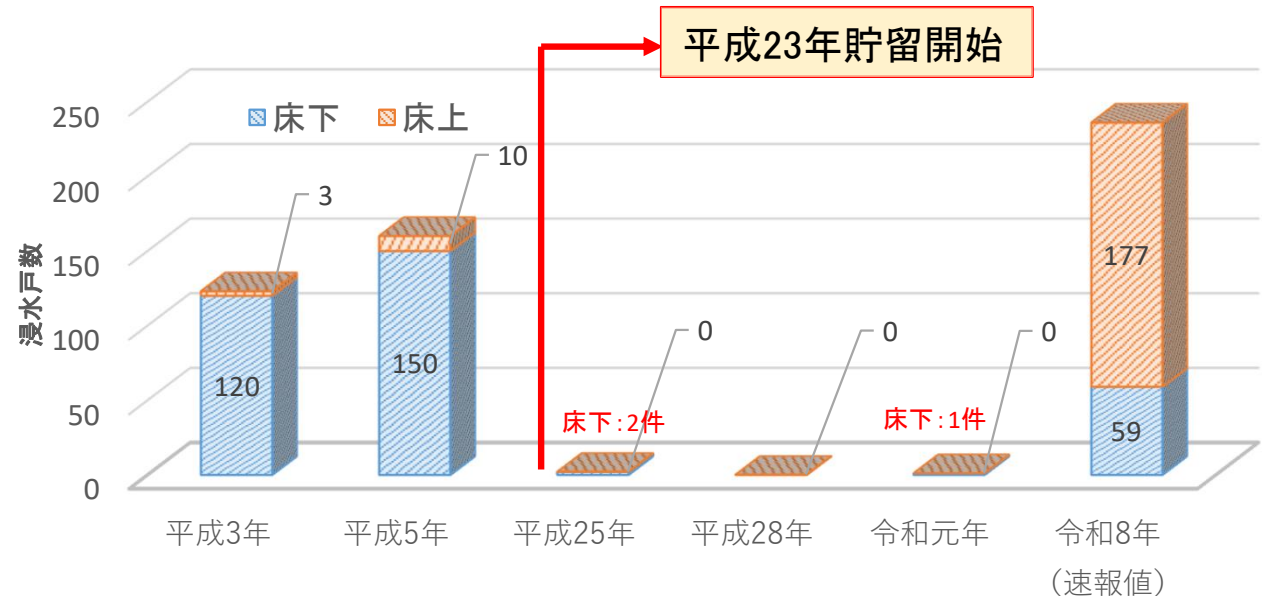
中央雨水1号貯留幹線 整備事業



中央雨水1号貯留幹線
直径:5.25m 延長:5.1km

貯留量:112,000m³(計画貯留量:約80,000m³)

浸水被害状況



	平成3年	平成5年	平成25年	平成28年	令和元年	令和8年
	9月19日	8月27日	10月16日	9月13日	10月25日	8月13日
	台風18号	台風11号	台風27号	台風16号	大雨	大雨
時間最大 (mm/hr)	44.5	33	61.5	55	44	115
総降雨量 (mm)	181.5	179.5	238	76.5	181.5	351

※ 表中の値は気象庁のデータを参照

平成23年貯留開始

効果事例(茂原市:一宮川水系一宮川の河川・下水道整備)

- 令和元年10月豪雨で4,337戸の浸水被害を受けた一宮川では、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等の予算を集中的に投資し、川の拡幅等の河川整備と雨水ポンプ増強等の下水道整備等からなる「流域治水」による抜本的対策を実施。
- その結果、令和8年8月千葉豪雨では、令和元年と同程度の豪雨であったものの、浸水被害を大幅に軽減。



令和元年豪雨での浸水状況

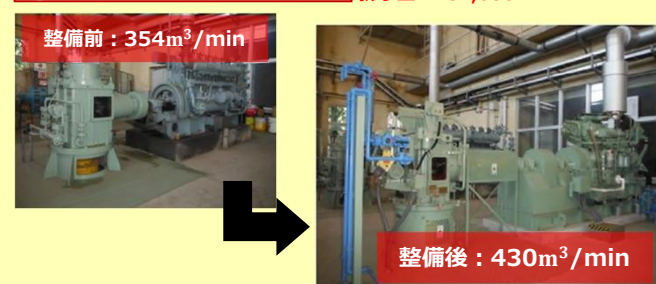


抜本的対策の例

①調節池整備(40万m³増設)



②ポンプ施設の増強



③川幅を広げる対策



令和元年豪雨の浸水範囲とその後の治水対策



浸水戸数

4,000
3,000
2,000
1,000
0

床上浸水
2,264

床下浸水
2,073

浸水被害を
大幅に軽減

床上浸水
20
床下浸水
198

令和元年豪雨

令和8年豪雨

雨量: 183mm (6時間)
257mm (24時間)

193mm (6時間)
250mm (24時間)

上流域: 一定規模の河川整備を行うとともに住宅は輪中堤などで守りつつ、遊水機能を保持、貯留施設を整備

中下流: 河川を広げるなど洪水を速やかに流下

引き続き、令和11年度末の整備完了に向け推進

※令和8年の浸水家屋数は、令和8年8月23日16:00時点の流域市町村全体の暫定値

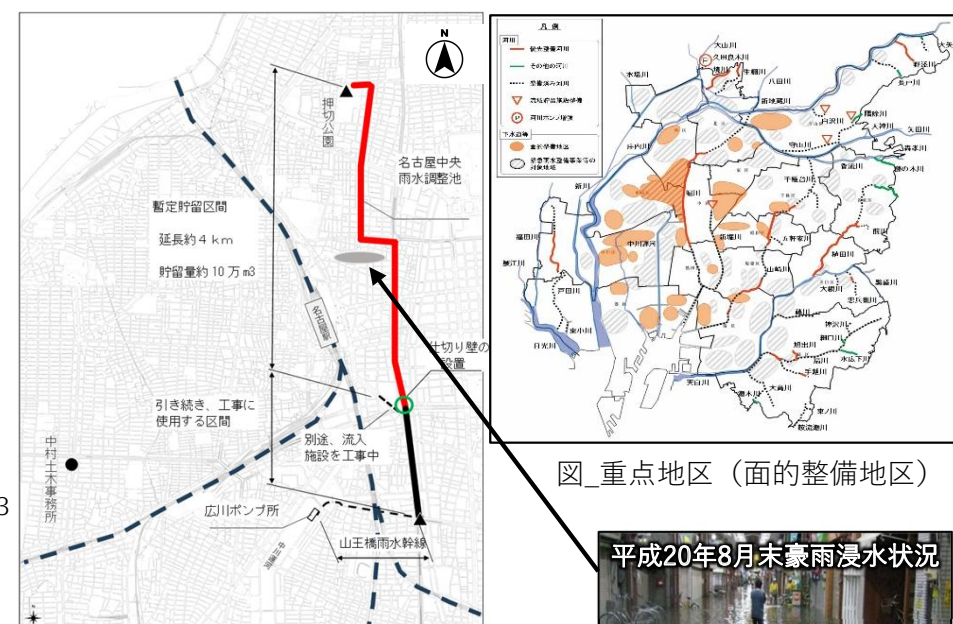
効果事例(令和8年9月大雨(名古屋市):雨水貯留管)

整備中の名古屋中央雨水調整池の暫定供用により 名古屋駅周辺の浸水被害を軽減



概要：既往の浸水履歴や浸水リスクの高い重点地区（面的整備地区）の内、名古屋駅周辺を含む中川運河上流地域で整備中の名古屋中央雨水調整池の暫定供用により、令和8年9月8日の大雨時の浸水被害を軽減した。
対策名：下水道防災事業（中川運河上流地区下水道床上浸水対策事業）

- 実施主体：愛知県名古屋市
- 実施場所：愛知県名古屋市(中川運河上流地域)
- 事業概要：名古屋駅周辺を含む中川運河上流地域は東海豪雨や平成20年8月末豪雨等で浸水被害が発生した。本事業は床上浸水被害を軽減することを目的とし流入管を整備中の名古屋中央雨水調整池において、工事区間の上流に仮壁を設置することで総延長約5kmの内約4kmの区間で約10万 m^3 の貯留機能を暫定供用したもの。
- 事業費：約600億円(名古屋中央雨水調整池、山王橋雨水幹線、広川ポンプ所)
- 災害の外力、被害と効果：
東海豪雨と比較して名古屋駅周辺地区の被害が大きかった平成20年8月末豪雨(時間最大約86.5mm/h)では、当該地区で床上浸水501棟、床下浸水4,912棟の甚大な被害が発生したが、令和8年9月8日の大雨(時間最大74.5mm/h)では、整備中の名古屋中央雨水調整池(整備計画降雨63mm/h)を暫定供用し約10万 m^3 の雨水を貯留し、雨水を貯留して名古屋駅周辺の致命的な浸水を防ぐなど、大きな効果を発揮した。

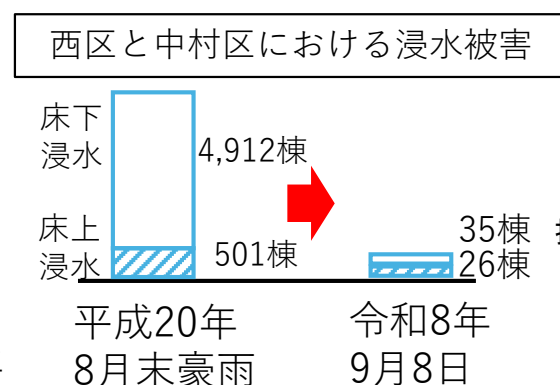
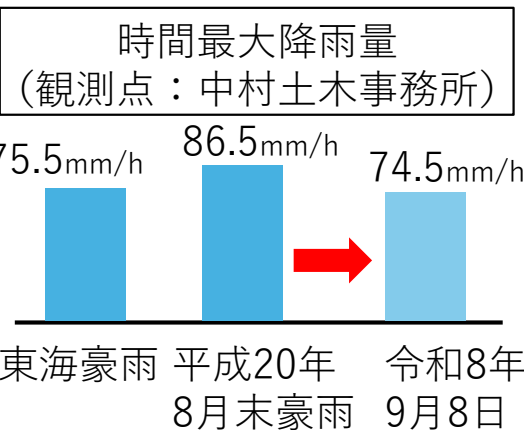


図_重点地区（面的整備地区）

平成20年8月末豪雨浸水状況

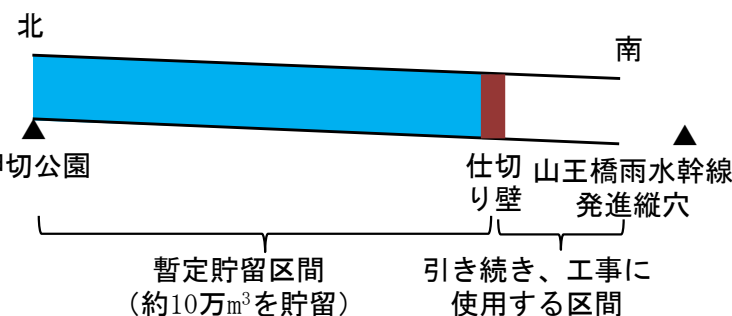


名古屋中央雨水調整池
(内径5.75m、土被り約45m)



※令和8年9月8日は9月16日時点における数値

図_名古屋中央雨水調整池暫定貯留区間平面図

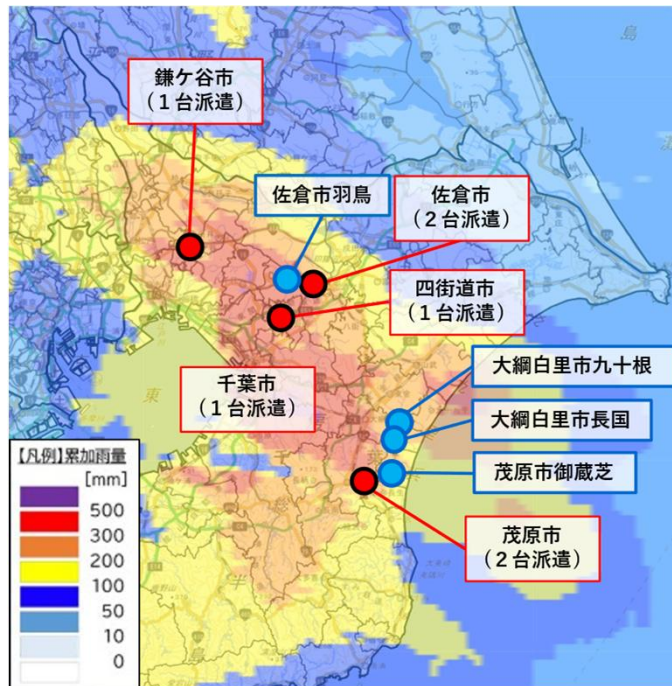


図_名古屋中央雨水調整池暫定貯留イメージ(縦断面図)

排水ポンプ車による排水作業の課題

- 平地部において同時多発的に浸水被害が発生、排水ポンプ車による排水作業を実施
- 一方、既存の排水ポンプ車は吸水に一定水深が必要なため、浅い浸水区域では十分な排水能力を発揮できず、浸水時間の短縮が十分に図れなかった

■排水実施箇所・排水見送り箇所



●: 排水実施箇所 ●: 要請等あったが排水見送り箇所

※ 自治体職員が参加する訓練等において、「ポンプ設置に一定水深が必要」と周知しており、上記●以外にも派遣要請しなかった箇所が存在すると推測

■排水作業状況(茂原市)

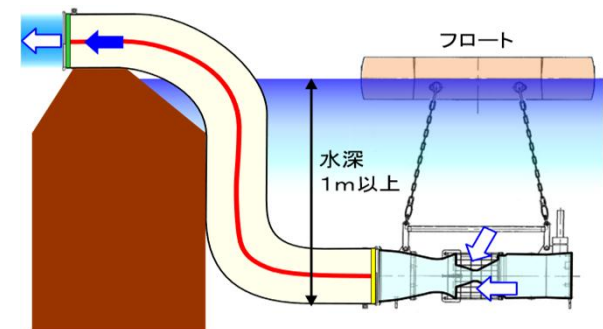


■浸水深が浅く排水困難だった箇所



■既存ポンプ排水時の水中状態

安定した排水能力発揮には
水深1m以上の確保が必要



外水・内水リスクに関する情報整備(これまでの取組)

- 浸水想定区域の作成対象の降雨規模は、「施設計画で目標とする規模」等として作成に着手
- その後、想定を超える浸水被害が多発したことを受け、平成27年からは作成対象の降雨規模をより大きな「想定最大規模(最大クラス)」へ見直し
- さらに、中小河川等においても人的被害等が多数発生したことを受け、令和3年に浸水想定区域の作成対象をすべての1級2級河川、下水道に拡大

外水(洪水)

内水(雨水出水) ※対象は下水道区域のみ

取組に着手
↓

- H13(水防法改正)
- ・浸水想定区域指定制度の創設(洪水予報河川のみ)
(計画降雨を対象)
 - ・ハザードマップ作成制度の創設(努力義務)

- H17(水防法改正)
- ・指定対象を水位周知河川に拡大
 - ・ハザードマップ作成の義務化

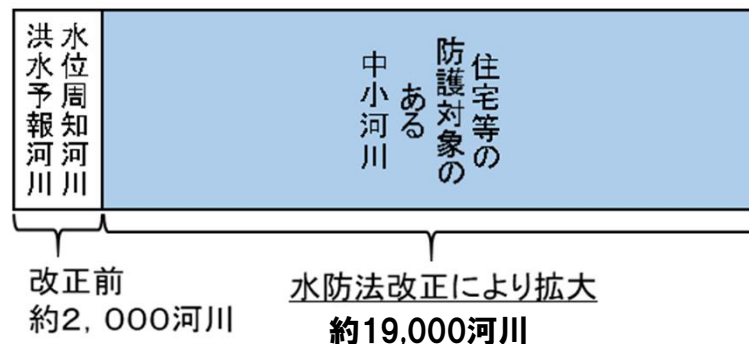
見直し
↓

- H27(水防法改正)
- ・想定最大規模の洪水に係る区域に拡充

対象拡大
↓

- R3(水防法改正)
- ・指定対象をすべて1級・2級河川※1に拡大
(令和7年度までに完了目標)
- ※1 住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川

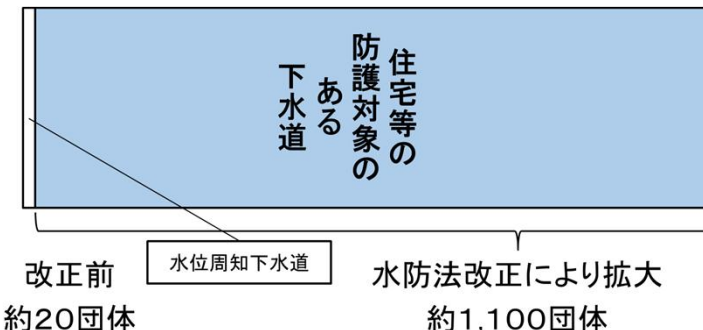
【課題】
これまでの取組は水防法第14条に基づき、1級・2級河川を対象として洪水浸水想定区域の指定を進めてきた。一方で、準用河川や普通河川においては洪水浸水想定区域図は作成されていない。



- H18～
- 内水ハザードマップ作成の手引き(案)に基づき作成
(既往最大降雨や浸水実績に基づく)

- H27(水防法改正)
- ・想定最大規模の内水に係る浸水想定区域指定制度の創設

- R3(水防法改正)
- ・指定対象をすべての下水道※2に拡大
(令和7年度までに約800団体完了目標)
- ※2 住宅等の防護対象のある浸水対策を目的として整備された全ての下水道



【課題】
これまでの取組は下水道区域のみに限られており、区域外のエリアにおいては内水浸水想定区域図は作成されていない場合が多い

※準用河川: 約14,000河川

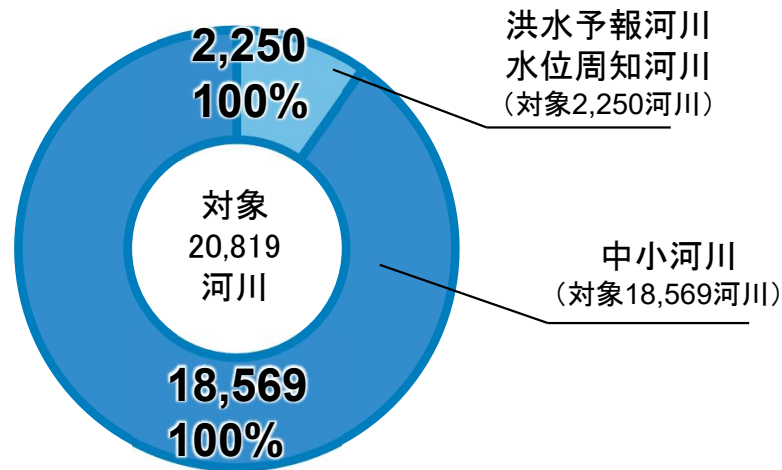
外水・内水リスクに関する情報の整備状況

令和7年度末時点

- 洪水(外水)に対するリスク情報は、浸水想定区域が100%公表済。ハザードマップは、洪水予報河川・水位周知河川にて約99%。中小河川にて約68%が公表済。
- 雨水出水(内水)に対するリスク情報は、浸水想定区域が39%公表済、ハザードマップは32%公表済。

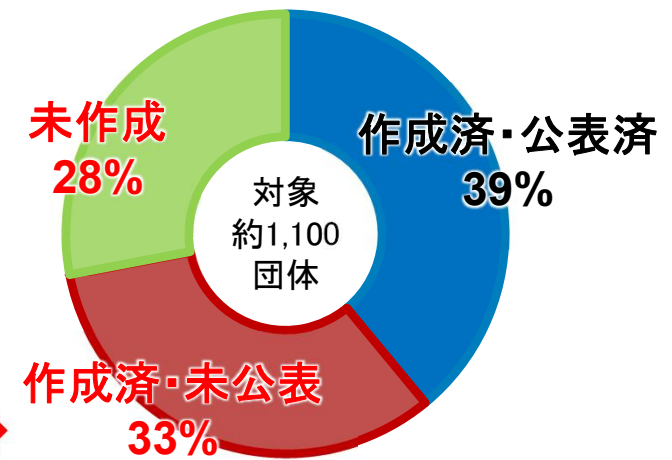
洪水(外水)に対するリスク情報

浸水想定区域図(最大クラス)の公表状況



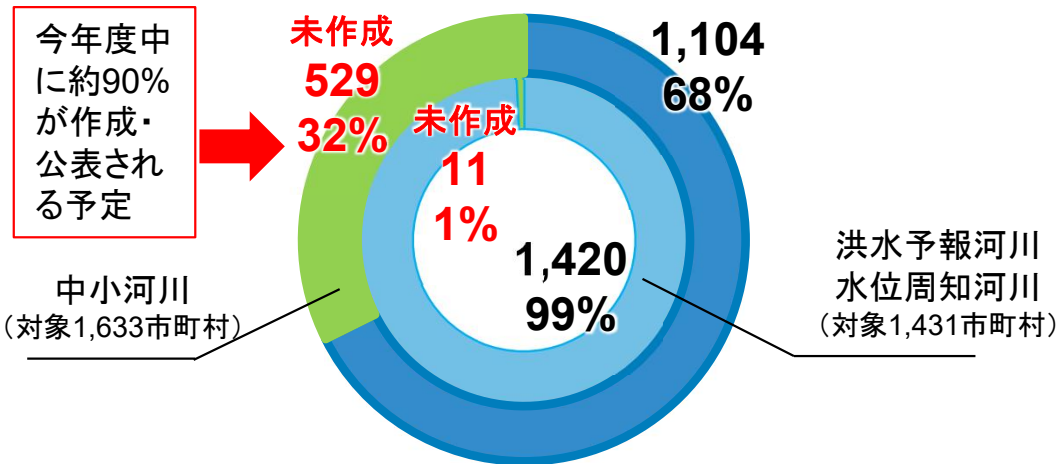
雨水出水(内水)に対するリスク情報

浸水想定区域図(最大クラス)の作成・公表状況



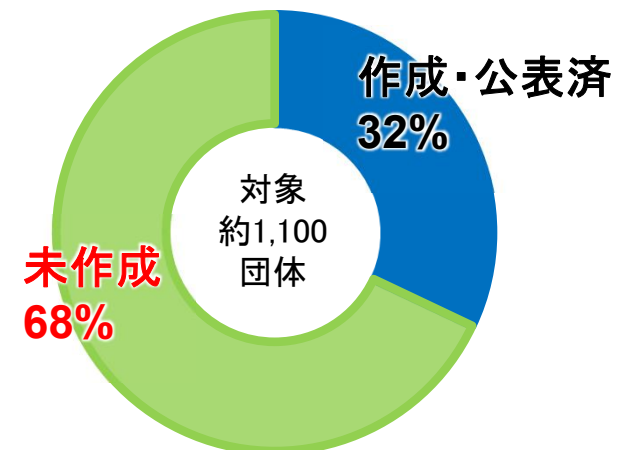
8月24日付で
公表・作成を促す
通知発出

ハザードマップ(最大クラス)の作成・公表状況



今年度中
に約90%
が作成・
公表され
る予定

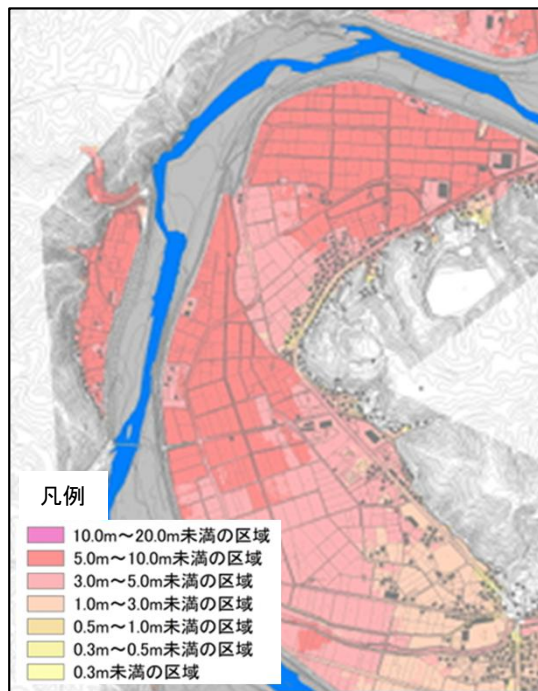
ハザードマップ(最大クラス)の作成・公表状況



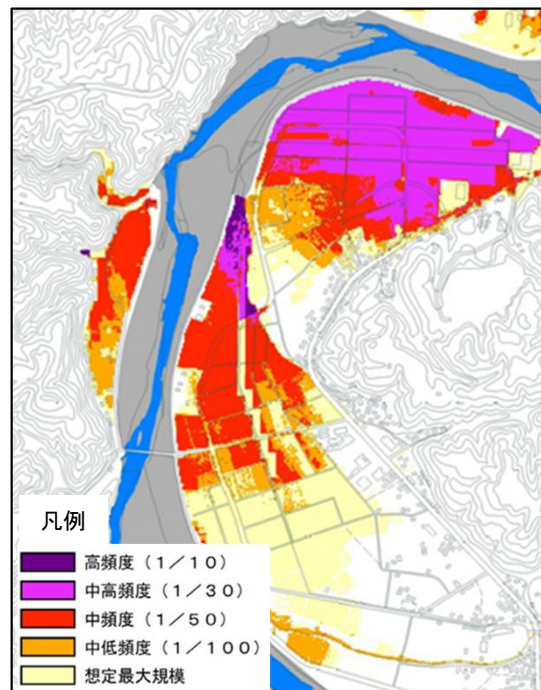
外水・内水に関する一体的なリスク情報の整備

- 流域の水害リスク情報の充実するため、現在管理者別に作成・提供されている浸水ハザード情報について、洪水予報河川や水位周知河川の氾濫、その他河川の氾濫(外水氾濫)、下水道等からの氾濫(内水氾濫)を重ね合わせ、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を作成・公表している。

洪水浸水想定区域図と水害リスクマップ



洪水浸水想定区域図
(想定最大規模)

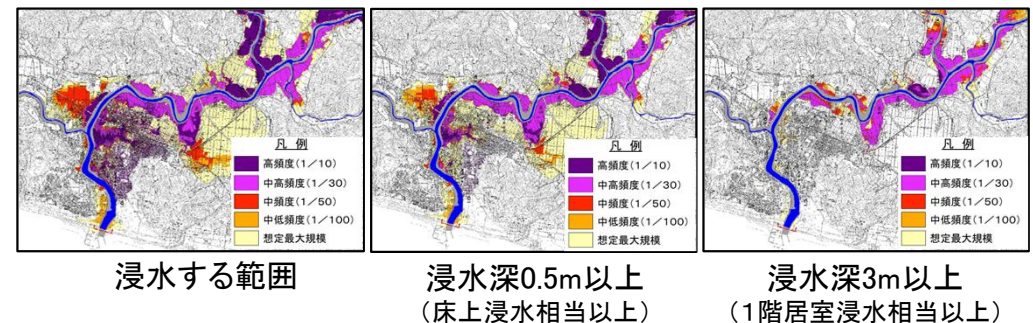


水害リスクマップ
(浸水深3m以上(1階居室浸水相当以上))

- 最悪の事態を想定して命を失うという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としている。

- 降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できる。

水害リスクマップの見方・活用例



<3つの図面を並べて比較>

- **【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】**
⇒居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられる。
- **【企業立地選択等に利用する場合】**
⇒浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられる。
- **【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】**
⇒立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられる。

取組状況

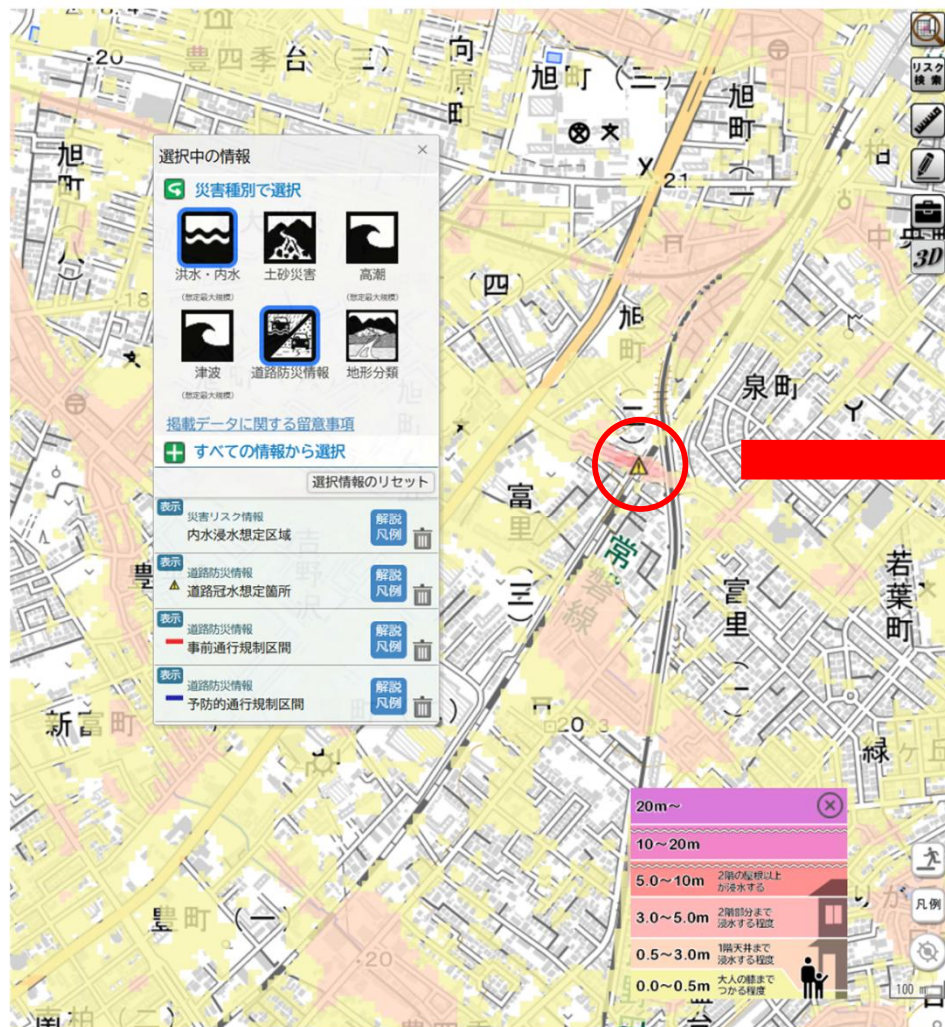
- 全国109の一級水系において、国管理河川の水害リスクマップ(外水氾濫)を公表済。
- 内外水統合型の水害リスクマップについては、60水系において水系全域で公表済み。(令和8年3月末現在、現況河道条件)

浸水等のリスクに関する情報の一元的な発信

- 国土交通省では、防災に役立つ各種リスク情報や、全国の市町村が作成したハザードマップのページを一元的に確認できる「ハザードマップポータルサイト」を公開。
- 本ポータルサイトの「重ねるハザードマップ」では、洪水、内水、土砂災害等の災害リスク情報を地図上に重ねて表示。例えば、道路冠水想定箇所として、アンダーパスの詳細な情報も確認可能。

※災害リスク情報は、各関係機関から提供を受け、必要に応じ加工のうえ「重ねるハザードマップ」で公開

※災害リスク情報が未整備の場所もあるため、災害リスクがないのか／未掲載か分からない点が主な課題

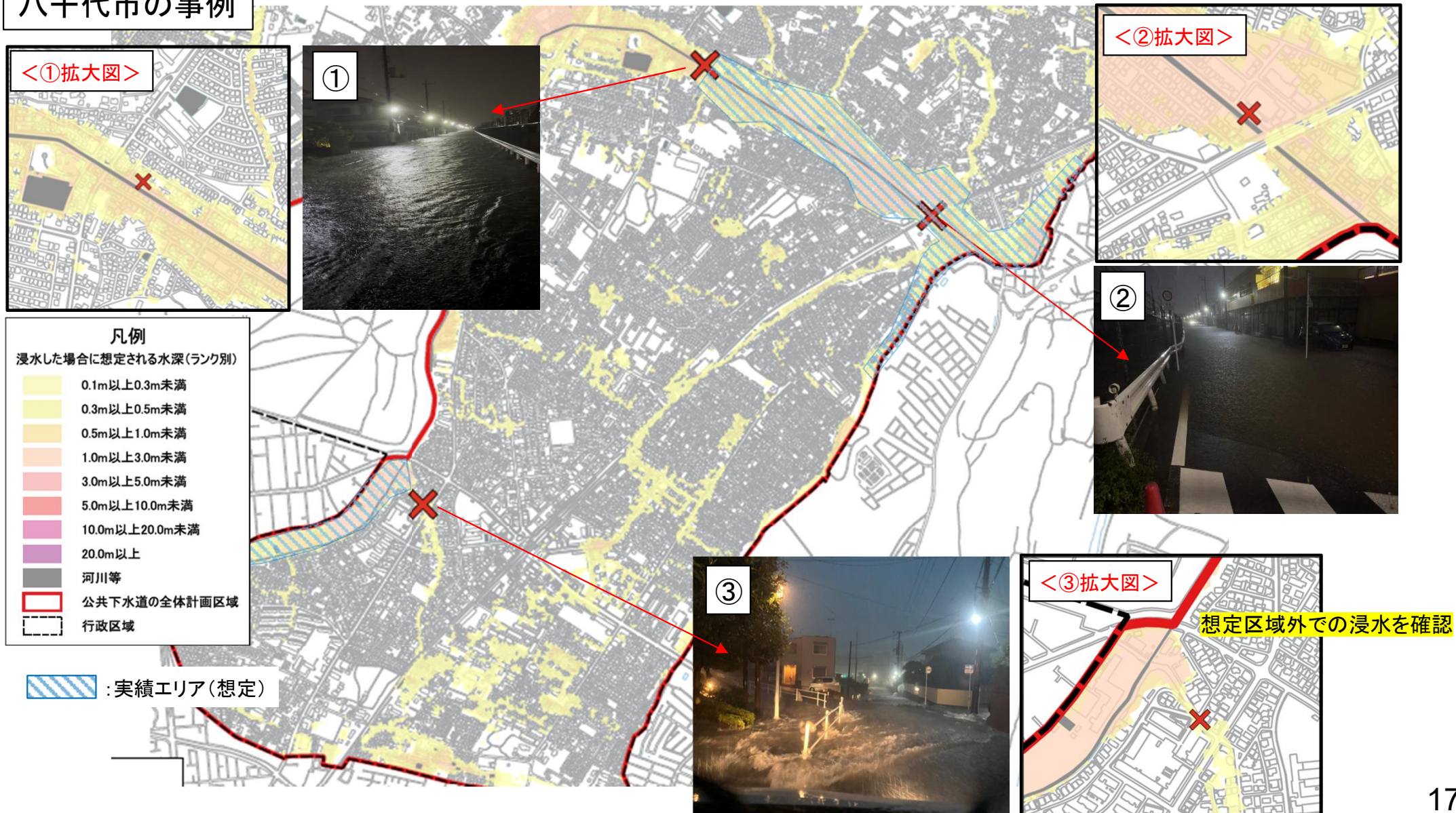


冠水想定箇所 説明表					
管理番号	箇所名称		アンダーパス等名称		種別
千葉県-02-36	主要地方道 市川柏線		中原アンダー		県道
住所					
都道府県名	市町村	字丁目		番地	
千葉県	柏市	旭町2丁目			
管理者		警察署		消防署	
名称	千葉県柏土木事務所	名称	柏警察署	名称	柏消防署
TEL	04-7167-1374	TEL	04-7148-0110	TEL	04-7133-0119
備考					
アンダーパスの前後に、冠水情報板あり					
位置図					

浸水実績と浸水想定区域の比較結果

○内水の想定区域図において、想定されたエリアと実際のエリアは、概ね一致したものの一部、想定区域外での浸水が確認された。

八千代市の事例



浸水想定区域の空白地域における浸水

○ 大網白里市では、小中川支川の金谷川流域で浸水が発生したが、金谷川は準用河川であり、周辺は下水道区域でないため、洪水浸水想定区域と内水浸水想定区域のいずれも作成対象となっていなかった。

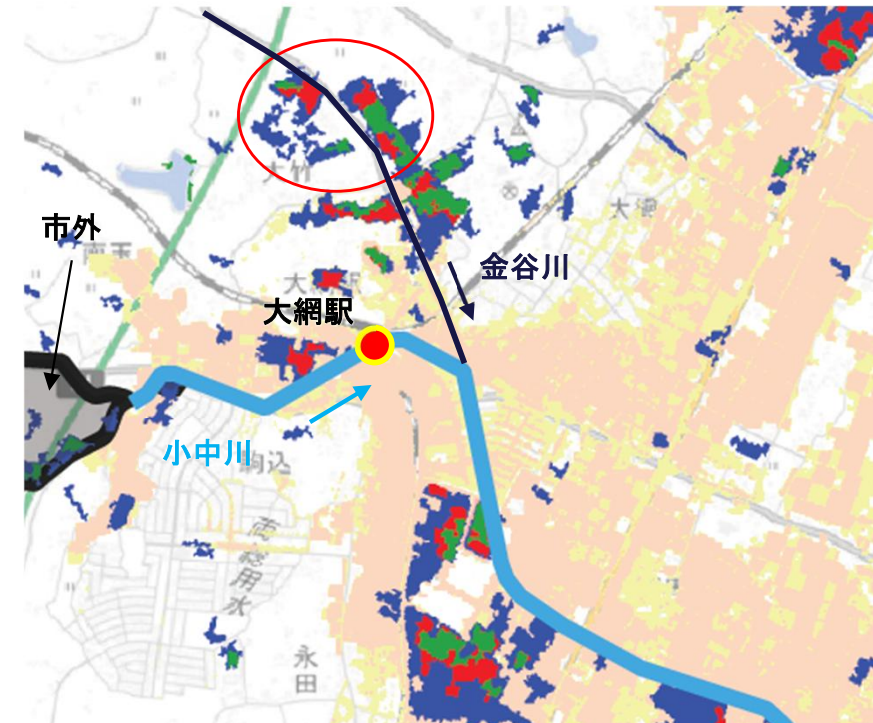


- 小中川(二級河川:洪水浸水想定区域の作成対象)
- 金谷川(準用河川:洪水浸水想定区域の作成対象外)

小中川洪水浸水想定区域図



- ※金谷川の諸元
- ・河川区分:準用河川
 - ・管理者:大網白里市
 - ・指定区間延長:1,800m
 - ・河川幅:2.2~4.9m



- 凡例
- 大網白里市 市域: —
- 浸水推定範囲
「©Synspective ALL RIGHTS Reserved」
本内容は内閣府で実施する「令和8年度小型SAR衛星コンステレーションの利用拡大に向けた実証」の成果です。
- 8月14日 15時7分 撮像
 - 8月14日 9時22分 撮像
 - 8月14日 7時35分 撮像
- 浸水想定区域
(洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域)
- | | |
|---------|----------|
| 20m~ | 3.0~5.0m |
| 10~20m | 0.5~3.0m |
| 5.0~10m | 0.0~0.5m |



大網白里市 雨水出水浸水想定区域図

浸水推定範囲と重ね合わせ

洪水浸水想定区域図・雨水出水浸水想定区域図と浸水推定範囲の重ね合わせ

浸水状況のリアルタイム把握(浸水センサ)

- 大雨による浸水被害が頻発するなか、迅速な災害対応や地域への情報発信を行うため、地域における浸水状況を速やかに把握する目的で、令和4年度より「ワンコイン浸水センサ実証実験」を実施中
- 長寿命、低コスト、容易な設置(電池駆動)を可能とした、**浸水の有無のみを検知するセンサ**
- 浸水判定結果を携帯回線等の既存の通信サービスを用いて浸水情報を送信
- 浸水センサは現在200を超える自治体で導入が進められているものの、全国的には一部にとどまっている

センサによる浸水把握



道路面への設置



自販機搭載型
(災害対応型自動販売機との連携)

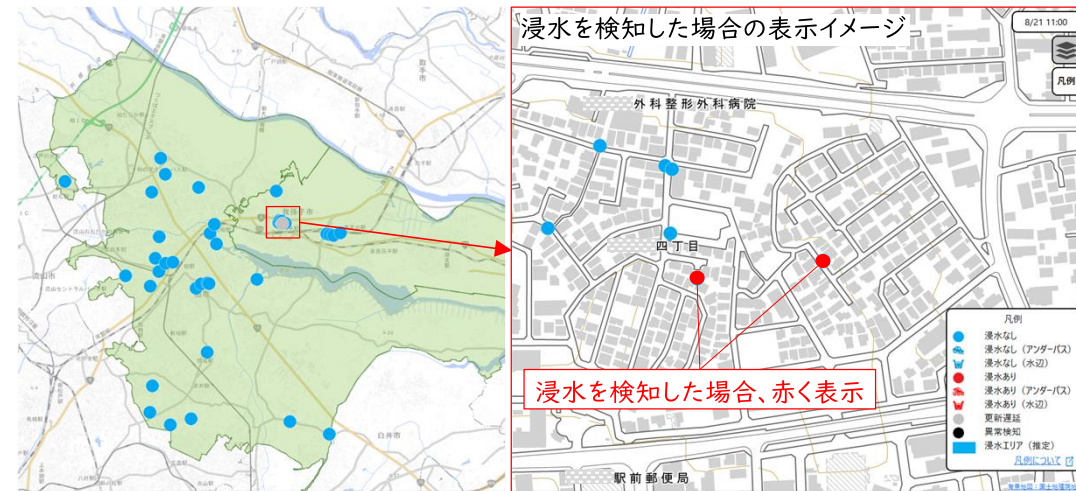


浸水検知状況(徳島県美波町)

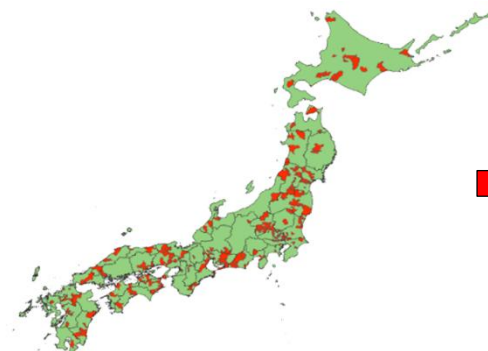
アンダーパス等への設置

各センサの情報を一元的に収集し可視化

浸水状況の可視化



ワンコイン浸水センサ表示システムHPより



■:参加自治体 236

※参加数はR8.6.1時点
フィールド提供のみの自治体を含む

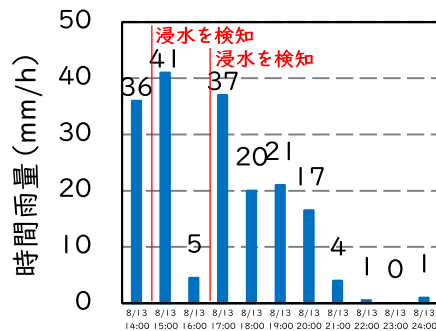
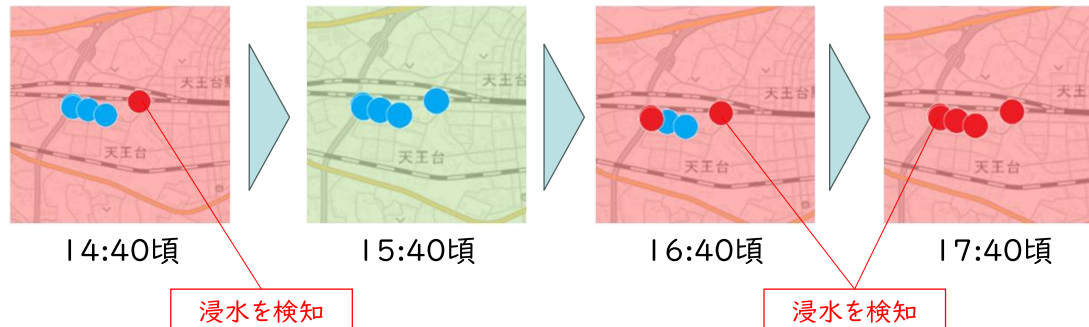
ワンコイン浸水センサ実証実験参加自治体

効果事例（浸水センサの活用）

- 令和8年8月千葉豪雨においては、車で移動中に浸水に巻き込まれ立ち往生したり、道路のくぼ地等で車が水没する死亡事案が発生
- 「ワンコイン浸水センサ実証実験」では、浸水域把握やそれを起点とした対応に活用が可能であることが実証

■ 千葉豪雨における検知事例（我孫子市泉交差点付近）

千葉県でのセンサ検知事例（令和8年8月千葉豪雨）



気象庁アメダス（我孫子市）の時間雨量 我孫子市泉交差点付近の冠水状況（X※より）

■ 過去の災害による活用事例

- 施設管理者が、センサ検知を起点に、現地確認・通行止め・排水対応等を迅速に実施

浸水センサ検知から通学路確保までの流れ

兵庫県加東市の事例（令和8年6月3日 台風第6号）

- ✓ センサ検知を起点に、現地確認・排水対応を迅速に実施



1件のメッセージ 2026/06/03

宛先: [redacted]

浸水センサにて浸水が確認されました。

兵庫県加東市 [redacted] 外壁 排水管周辺の浸水センサ [redacted] で浸水が確認されました。

・デバイスID : [redacted]
・浸水検知時刻: 2026-06-03 05:38:29
・住所: 兵庫県加東市 [redacted]

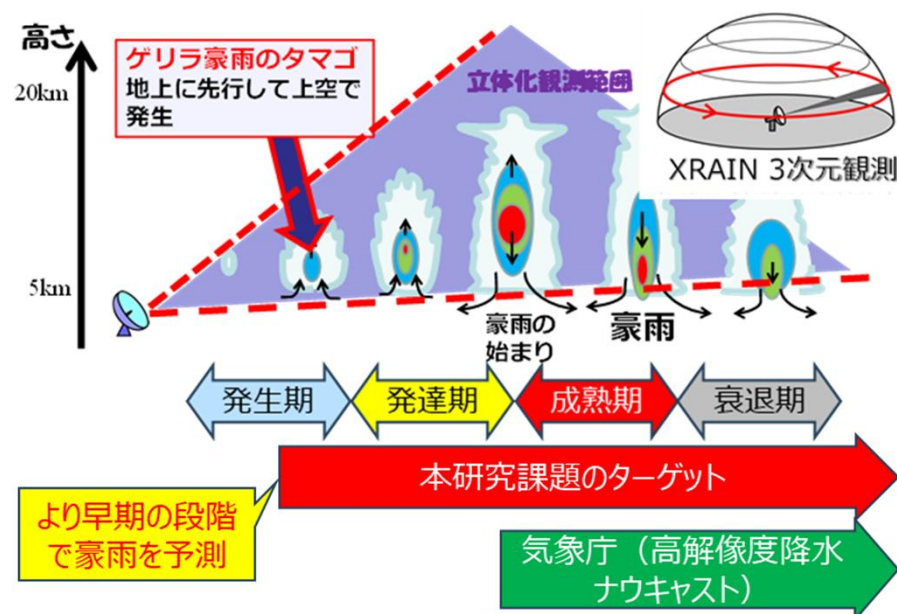
※このメールにお心当たりのない方は以下のメールアドレスへご連絡をお願い致します。
[redacted]

XRAINを用いた局地的豪雨の事前情報提供に向けた研究開発

- 局地的豪雨は豪雨の発生から浸水までの時間が非常に短いため、地下空間からの避難や止水版の設置、道路の通行止め、鉄道の運行停止等の応急対応が間に合わないことが多く、局地的集中豪雨に対する事前情報の提供が不可欠
- 国土交通省水管理・国土保全局では気象庁と連携し、レーダによる雨量観測網の充実に努めてきたところであり、これを活用した局地的集中豪雨の直前予測技術(いわゆる豪雨のタマゴ)を確認する技術)が進展
- 現在、内閣府のBRIDGE※を活用し、局地的豪雨に関する一定程度定量化した予測情報を生成・提供することを目指して開発を進めているところ

※研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム

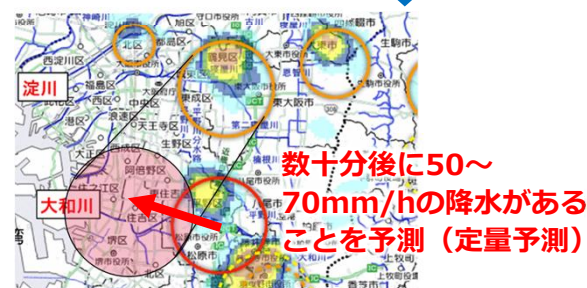
研究開発等の具体的な内容



- ・地上に先行して上空で発生する「ゲリラ豪雨のタマゴ」を検出し、**渦の発生状況から豪雨の発生を早期に検知**する定性情報。近畿で先行して試験研究。
- ・既設のXRAIN (XバンドMPLレーダ) の3次元観測情報を活用。



災害対応等への活用を見据え、**定性予測から定量予測へ深化**



局地的豪雨により、わずか10分で急激な水位上昇

予測種別	手法	ターゲット	概要
定性予測 (従来)	豪雨のタマゴ手法	発生期～発達期	50mm/hに発達する可能性を赤・橙・黄色の円で表現
定量予測 (新規)	工学的手法	発生期～発達期 (現状、予測が困難な時間帯)	降水セル内の最大降水強度のレベル (10～、30～、50～、70以上) を予測

地下空間における浸水

令和8年千葉豪雨、9月の東海地方の大雨では、地下空間への浸水が確認された。また、過去にも地下空間への浸水事例は複数確認されている。

○平成11年6月

福岡市を貫流する御笠川の氾濫等による大量の水が博多駅周辺の地下街や地下鉄、ビルの地下室などに流れ込み、地下室に閉じ込められた1人が死亡

○平成11年7月

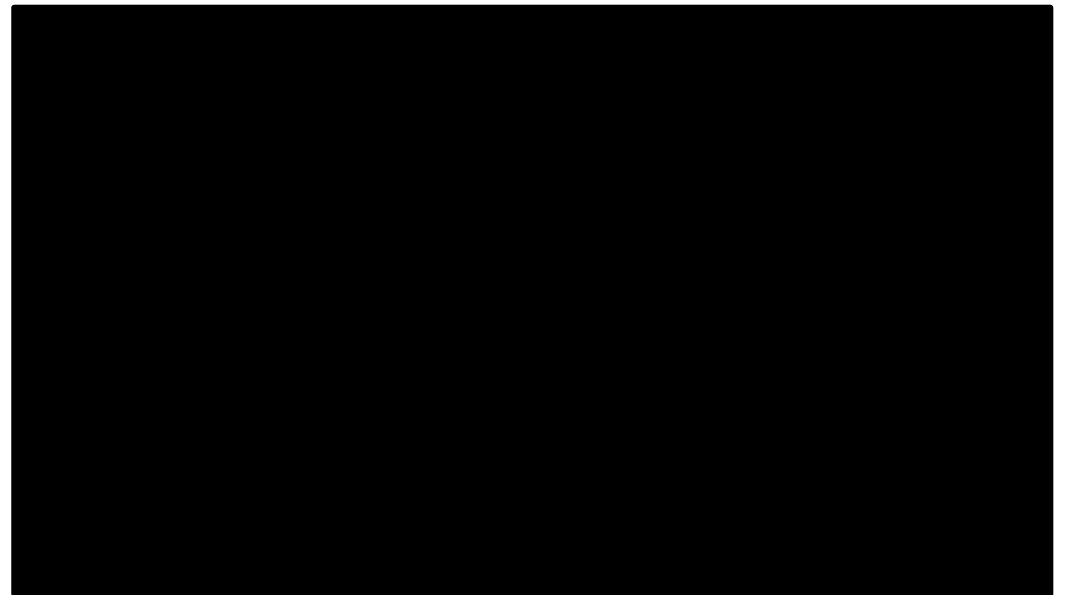
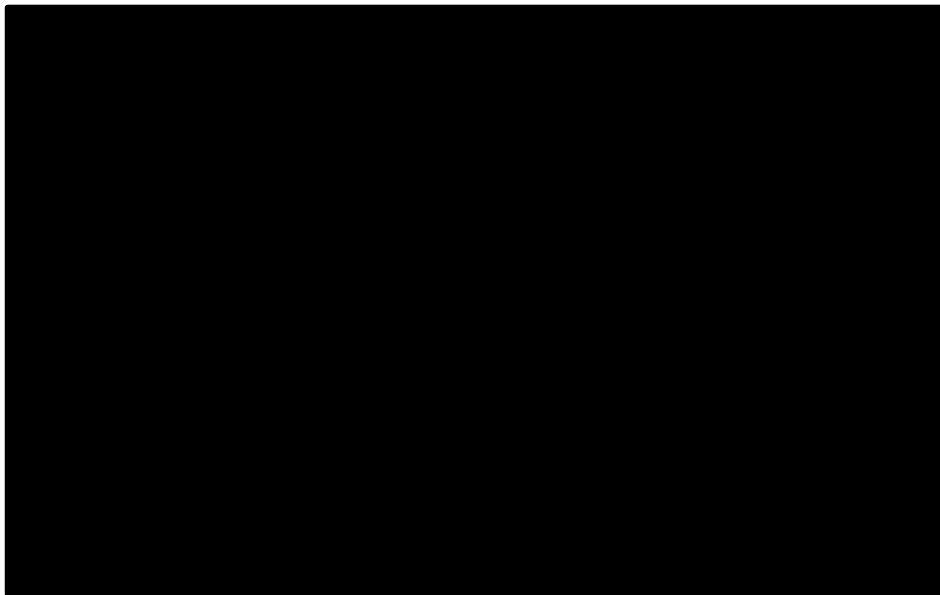
練馬区を中心とした集中豪雨により新宿区のビルの地下室が水没し、閉じ込められた1人が死亡

○平成12年9月【東海豪雨】

内水氾濫により名古屋市の地下鉄が浸水し、最大2日間運転を停止し、約47万人の足に影響

○令和7年9月

都内で旧河川に面する敷地等において浸水し、地下店舗で店員らが一時閉じ込められたほか、東急目黒線の西小山駅の地下ホームで線路が冠水し運転の一時見合わせ等が発生



地下街等への避難確保・浸水防災対策

- 地下街等は、浸水開始から避難までの猶予が短く、避難経路が限られるほか、外部状況を把握しにくいいため、浸水に対して非常にリスクが高い空間である。
- このため、水防法では、浸水想定区域内にあって市町村が地域防災計画に位置付けた「地下街等」(※)について、市町村に対しては地下街の管理者等に河川の水位情報等の伝達、地下街の管理者等に対しては避難確保・浸水防止計画の作成や訓練の実施などを義務付け、以下などの取組を進めている。
 - ・「地下街等に係る避難確保・浸水防止計画作成の手引き」の公開
 - ・地下街等における浸水防止用設備整備のガイドライン の公開
 - ・避難時間と浸水時間の計算を支援するツールの配布(内水)
 - ・防水板、排水ポンプ、換気口浸水防止機及び防水扉に対する固定資産税の減免措置
- 地下街等の浸水は急激に進行し人命に危険が及ぶため、①避難確保・浸水防止計画の作成・訓練、②避難に必要な浸水防止用設備の整備支援、③情報収集・伝達体制の強化が重要である。

浸水防止用設備(特例措置対象)

防水板



排水ポンプ



換気口浸水防止機



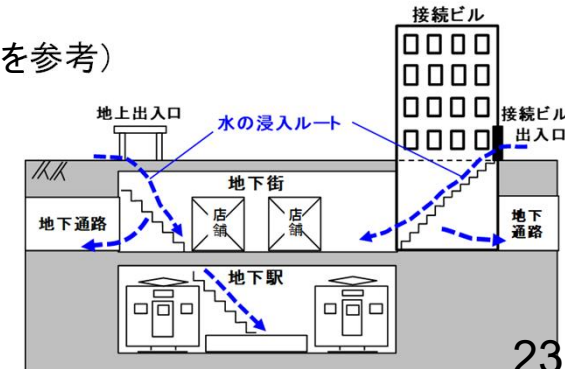
防水扉



※対象となる地下街

- ・不特定多数の者が利用する地下街、地下駅、これらと接続しているビルの地下フロア等で、あらかじめ必要な措置を講じなければ浸水が発生した場合に利用者を円滑かつ迅速に避難させることが困難であり、大きな被害の発生が想定されるような地階部分をいう。
- ・地下街等はその形態が多様かつ複雑であり、想定される水害の状況も異なることから、地域性を考慮して、市町村防災会議において対象とする施設を選定することとしている。
- ・地域防災計画における地下街等の設定例(消防法を参考)
 - 1) 延べ面積が千平方メートルの地下街
 - 2) 地階の床面積の合計が5千平方メートル以上の施設
 - 3) 地階に駅舎を有するもの
 - 4) 50台以上の車両を地下駐車場で収容する施設

例) 千代田区、横浜市、川崎市、仙台市 等



適切な行動につながる情報の提供

- 千葉豪雨を受け、「レベル5大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動」及び「レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点」についてチラシを作成し周知
- レベル5大雨特別警報発表時の気象庁との合同会見でチラシを活用し、警戒を呼びかけ
- 適切な行動につながる、生活者目線でのわかりやすい情報発信、報道機関との連携が重要

レベル5大雨特別警報が 発表されたときにとるべき行動

すでに安全な避難ができず、
命が危険な状況です
むやみに移動せず
今いる場所よりも**安全な場所へ移動して**
身の安全を確保しましょう

❗ 浸水した場所での車移動は危険！
立ち往生し水没するおそれがあります。
むやみに移動せずに安全な場所で状況が落ち着くまで待機しましょう。

❗ 河川・用水路・冠水した箇所へ
絶対に近づかない！
特に地下施設やアンダーパス、低地は短時間で
浸水する危険があります。
⚠ 浸水深30cm以上となる低地は要注意

❗ 市町村が発令する警戒レベル4避難指示までに
必ず避難しましょう！

❗ レベル5大雨特別警報が発表される前段階から
最新の気象・避難情報を確認！
テレビ、ラジオ、インターネット、SNS、防災行政無線等で
最新の情報を確認してください！

❗ 浸水リスクを確認しましょう！

ご自身のいる場所が、河川の氾濫や内水氾濫による浸水リスクがないか、
自治体が公表しているハザードマップや防災情報を確認しましょう。

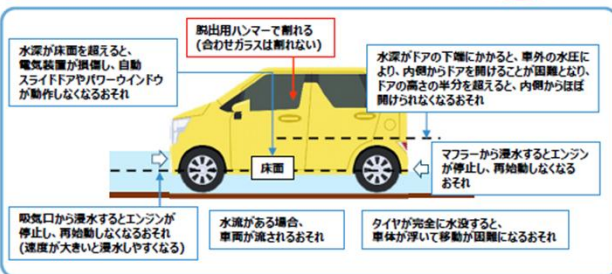
内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

レベル5大雨特別警報 が発表されたときの車運転の注意点

浸水が懸念されるときは
車での移動を控えてください！
冠水した道路への進入は
命に関わる危険があります
安全を最優先に行動しましょう！

❗ 車はわずか30cm程度の浸水でも**走行不能**に
なる場合があります

❗ エンジン停止や水圧で
窓やドアが**開かなくなります**
万が一、ドアが開かなくなった場合の備えとして、
脱出用ハンマーをすぐに使える位置に！



徒歩または早めの避難を心がけ、
やむを得ず車を使う場合は**冠水した道路を避けてください**

内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁



気象庁、水管理・国土保全局合同記者会見
令和8年9月8日：愛知県・岐阜県にレベル5氾濫特別警報発表

矢田川（愛知県）に レベル5 氾濫特別警報発表

◆レベル5 氾濫特別警報が発表されています。
直ちに**命を守るための行動**を

◆矢田川瀬古基準観測所において、氾濫が発生する水位に既に到達

◆**避難情報に従い、直ちに身の安全を確保**

気象庁、水管理・国土保全局合同記者会見
令和8年9月8日：愛知県・岐阜県にレベル5氾濫特別警報発表

(都市型水害) 課題と対策の方向性(案)

○ 今回の都市部での施設の整備水準を超える豪雨によって生じた被害状況と、これまでの対策の状況と効果等を踏まえつつ、今後の対応方針を以下のように整理。

①事前の備えの強化

現時点で判明した主な課題	対応方針(案)
- 内水のリスクに関する情報(浸水想定、ハザードマップ)の周知が不足 - 内水と外水のリスクに関する情報を両方を確認することへの意識啓発 - 内水と外水のリスクに関する情報(浸水想定、ハザードマップ)に空白域が存在する	- 浸水想定、ハザードマップ等のリスク情報の周知・徹底 8月24日に関連通知を发出 - 重ねるハザードマップによる一体的な情報提供の強化 - 降雨の確率規模別(1/10、1/50、想定最大等)の外水氾濫と内水氾濫が統合された水害リスク情報の整備促進 - 浸水想定区域図の空白域におけるリスク情報の提示方法を検討 - 気候変動や近年の降雨状況を踏まえた内水浸水想定区域図の想定最大降雨量(降雨強度、降雨継続時間)の妥当性の確認、見直し
仮に、大規模な地下空間を有する大都市において、同等の豪雨が長期に続いた場合には、甚大な被害が生じる可能性がある	地下空間に対する危険性の周知と備えの促進

(都市型水害) 課題と対策の方向性(案)

②氾濫から命を守るための避難行動の支援策

現時点で判明した主な課題

- 都市型の内水氾濫発生時の道路冠水による車内閉じ込め等の危険性への理解が十分に浸透しておらず、死者が発生

対応方針(案)

- アンダーパス等の低地への車両侵入を控える、地下空間に対する注意喚起の強化等
 - 大雨特別警報が発表された際の国交省・気象庁の合同記者会見での発信強化
8月26日から実施
 - 大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動及び大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点や、浸水時の備え(脱出用ハンマー等)についてチラシを作成し周知
8月26日から実施
 - 報道機関等と連携したより分かりやすい周知方法の検討

- 内水氾濫に関するリアルタイムの情報の充実

- XRAINを用いた局地的豪雨探知システムの高度化による予測技術の開発
- 内水被害リスクが大きい地域におけるリアルタイム観測機器(下水道施設の水位計、ワンコイン浸水センサ等)の設置を促進し、収集した浸水情報等の利活用方法を検討
- リアルタイム情報のオープンデータ化による民間企業による情報発信の支援(車両運転者への提供含む)
- 衛星画像の活用等による、内水浸水範囲を迅速に把握する仕組みの構築

(都市型水害) 課題と対策の方向性(案)

③氾濫による浸水被害を軽減するための流域治水対策

現時点で判明した主な課題	対応方針(案)
- 特に経済中枢機能が集中する都市部において、治水整備が途上である中での計画を上回る規模の豪雨により、広域で内水氾濫等が多発し、深刻な社会経済被害が発生 - 高層マンションや総合病院など、地下空間の浸水により、生活や医療サービス等に多大な影響が発生 - 仮に、大規模な地下空間を有する大都市において、同等の豪雨が長期に続いた場合には、甚大な被害が生じる可能性がある【再掲】	「都市機能の確保」「生命の保護」等の観点から、重点的に対策を行うべき地区における気候変動や近年の降雨状況を踏まえた、計画降雨の見直し - 雨水貯留管、河道掘削等の河川・下水道のハード整備の加速化・強化 - 民間による地下街等への防水板等の浸水防止用設備の設置促進や官民連携による雨水貯留対策の推進 - 排水機場の耐水化、計画的更新
- 住宅地内の局地的な窪地等において、深い浸水が生じ、車内閉じ込め等により人命が失われる事態が発生 - 複数の地域で多数の内水氾濫が発生し、一部地域においては浸水が長時間継続	ソフト対策による浸水リスクに関する情報の周知等に加え、 - 雨水対策(下水道)において、危険箇所を抽出した上で、浸水想定区域図に明示するとともに対策計画を見直し個別に対策を実施 - 低水位でも排水可能な排水ポンプ車の導入